

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	児童発達支援ひなぎく		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 13日		～ 2024年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 32名	(回答者数)	32名
○従業者評価実施期間	2024年 12月 15日		～ 2025年 12月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スタッフ同士のコミュニケーションが良好で、利用者様の支援プログラム、活動の様子、保護者様の状況など、会議やミーティング以外でも常に情報共有できる関係性である	・ 始業前、終業時のミーティングを必ず行い、日々の業務確認、利用者様の情報共有を行っている ・ 会議やミーティング以外でも、空き時間や支援準備・片付けの時間なども有効に情報共有や意見交換をしている	・ 情報共有したことをこまめに記録として残し、その場に居なかったスタッフでも知り得ることが出来るようにしていく
2	手作りの教材が多く、お子様の興味関心に合わせて取り入れることが出来る	・ お子様の支援計画に沿って、個々の必要なスキルを伸ばすための工夫をしている。 ・ お子様の興味関心に合わせた教材で効果的な支援となるように取り組んでいる	・ 今後もお子様の興味関心に合わせて教材や玩具を提示していくために、必要時作成していく
3	活動や人数に応じて、部屋の使い方を変えることが出来る	・ 戸建ての一軒家の一室なので、環境は限られたスペースであるが、体を動かす運動遊具などは折り畳み出来るものや必要に応じて出し入れができるタイプを活用している	・ 限られたスペースの部屋で出来ることを工夫していく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ 戸建ての一軒家なので、大きな運動遊具や吊り遊具などは置けない。大きく体を動かす感覚遊びが限られてしまう。	・ 大きな遊具や吊り遊具を設置することは不可能なスペースである	・ 限られたスペースでも取り組める遊具の工夫や、収納場所として屋外物置の活用をする
2	・ 住宅地に位置する事業所なので、近隣への騒音問題がある	・ 近隣の家と隣接しているため、騒音や振動が直接迷惑になることがある	・ 近隣住民との良好な関係作り、理解を得る ・ 隣接している窓を開放しない、防音対策をする ・ 粗大運動の工夫、近隣の公園の活用なども取り入れる
3			